

校内研修計画

甲州市立松里中学校

1 学校課題

学校教育目標「自ら求め、学び、開く生徒の育成」を基に、教職員が一丸となり、主体的に学習活動に取り組む生徒の育成を目指している。生徒は、授業や生徒会活動にも意欲的に取り組み、自分の力を伸ばし、仲間の一員として活躍したいと思っている生徒が多い。授業には一生懸命取り組む反面、自分の思いを表現し、粘り強く学習に取り組むことには課題がある。また、様々な課題から、適応指導教室で学習する生徒や支援が必要な生徒が増加傾向にある。誰一人取り残すことなく、個に応じた教育が受けられ、個の能力を生かす教育の方向性が大切だと考える。

2 研究主題

「自ら求め、学ぶ生徒の育成」

～対話を通じた授業づくり・ICTの活用を通して～

3 主題設定の理由

1時間の授業において、生徒が「何を学ぶか」という見通しを持ち、【めあて】を理解した上で授業に参加し、授業の終わりに「何が身についたか」が明確となるような【自己評価】や【振り返り】をすることが重要であると考え。このことを実現させるためには、まず生徒の「主体的に学ぶ姿勢」が前提にあり、その根本には生徒と教師がともに楽しいと思える授業を展開することが重要である。また、協働を通して互いの考えを交流させることで「分かった」や「できるようになった」が増えることは、自信へとつながる。

ICTの活用についても、これからの Society5.0時代を生きる子供たちに必要不可欠なツールである。GIGAスクール構想によって導入されたICT端末を、使うことが目的にならず、指導目標を達成させる(身につけさせたい力の確実な定着)ためのツールとして効果的な活用の方法を確立しなければならない。積極的にICT端末を活用することによって、特別な支援を必要とするなどの多様な子供たちを誰一人取り残すことのない一人ひとりに応じた個別最適化学習を実現し、それをさらに仲間との協働的な学びへと深化させていきたい。それらが学習に向かう力となり、自ら求め、学ぶ生徒へと成長していくと考えられる。

4 研究の具体的な内容と方法

(1) 甲州市確かな学力育成プロジェクトとタイアップした研究

1) 家庭学習の充実

松中ノートの取り組みを充実させるために、全校統一の振り返り(左側のページ)を定着させる。さらに、自己調整学習(右側のページ)を支援していく。個人学習でできる生徒もいるが、自分で行うことが難しい生徒、さらに発展的な学習をしていきたい生徒に対して自由度を高めると共に、AIドリルなどを活用し、個別最適な学びを実現した松中ノートのよりよい在り方について教職員・生徒・保護者と考える機会を設ける。甲州市「家庭学習の手引き」や山梨県「家庭学習のすすめ」を活用していく。

2) WEBQ-Uの実施と結果分析

学級・集団づくりの質の向上のため、WEBQ-Uを実施し、【学年ブロック研究部会】分かれて、K13法による結果分析を行い、各クラスの担任は、アタックシートの作成をする。そして、全校体制で集団や生徒一人一人に合った声掛けや指導を行い、生活面や学習面での支援体制を構築していく。

3) 授業の構造化への追求

生徒に身につけさせたい力を明確にし、「振り返り」を行うことで生徒が「めあて」に対して自分が達成できているのかを判断し、「何が身についたか」や「どのようなことが分からなかったか」また、「分かるようになったか」についても明確にさせるとして、自己調整学習を進めながら、学習を定着させたい。また、これらが教員の授業改善につながると考える。さらに、ICT 端末を、学びを深めるためのツールとして活用し、授業の構造化をさらに進めていく。

(2) 本校独自の教育研究

1) ICT 端末の効果的な活用

授業の目的を達成するための学習ツールとして ICT 端末の効果的な活用を検討していく。また、教員と生徒の活用スキルを向上させることが急務である。そのため、甲州市 ICT 活用スキル系統表を意識して発達段階に応じた情報活用スキルと情報モラル教育を行う。また、個別最適な学びの実現と学力の向上を図るために、Google for Education や AI ドリル(LINES)の活用の可能性を探っていく。

2) お互いの授業を見合う

ICT を活用した授業について授業提供して頂く。日々の授業の中で、1人1台パソコンや新聞を活用する授業のときにアナウンスを行い、時間が合う先生方で授業を見合うような取り組みを行う。

3) 学びの基盤づくり

☆学びの集会の実施

→学習方法のアドバイス、情報モラルなど、他学年で意見を出し、対話的な学びを目的とした集会

☆授業規律の継続指導

→「話をする人を見て話しを聞く」「場面に応じた大きさで話す」「時間を守る」「あいさつ・返事」

年 間 校 内 研 修 計 画

No.	月 日	曜	研究内容	備考
1	4月14日	水	今年度の方向性の提案, 家庭学習について	
	5月13日	金	「確かな学力」育成プロジェクト講演会	
2	5月16日	月	GIGA スクール構想と Google for Education	
3	6月13日	月	Q-U の分析①・学びの集会	
	7月 1日	金	「確かな学力」育成プロジェクト講演会	
4	7月 6日	水	ICT 端末の効果的な活用について	(TC 要請)
5	8月26日	金	ICT 研修	
6	10月12日	水	研究授業の指導案検討	
7	11月14日	月	Q-U 分析, 研究授業の指導案検討	
8	12月7日	水	研究授業	(TC 要請)
9	1月16日	月	ICT の効果的な活用と松中ノートについて 成果と課題、研究紀要について	
	1月18日	水	「確かな学力」育成プロジェクト講演会	
10	2月13日	水	研究紀要について, 来年度の方向性	

(研究主任 雨宮 友久)